巻頭言

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学情報科学センター 公開日: 2009-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阪井, 和男 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/4316

次世代大学のための情報コミュニケーション環境の確立を目指して

明治大学における情報科学センターのようないわゆる情報系のセンターは、小中高等学校にはない大学に特有の組織である。大学の情報系センターは、教育研究用とともに事務用のネットワークから情報教室などの設備までを一括管理する組織であり、このような大組織は小中高等学校には存在しない。しかも、大規模大学の場合は学生数が数万人規模と膨大であるため、ネットワーク設備も大規模であり、企業と比較してもネットワークの運用管理にかかるコストが膨大なものとなっている。

近年、1990年代のインターネットの商用利用が始まってから、ブロードバンド化が一気に進んで生活のなかにまでインターネットが浸透してきている。もともと大学や研究機関においてネットワーク研究者のためのものだったインターネットが、現在では教育用にも事務用にもごく当たり前に使われている。

このような時代に、情報系センターの役割はいかにあるべきなのか。

個別のネットワークやシステムを運用管理するというボトムアップ的なアプローチを繰り返していたのでは、たどり着く先を見失ってしまう危険性がある。大学のあらゆる活動を支える神経網としてのネットワークとその上でのさまざまなサービスを、大学のビジョンに沿って統合的に企画立案し運用管理することが求められているのである。

現在、全学の統合的な機構として情報関連組織を抜本的に再編成すべく、情報科学センターを解体して2007年度から新しく「情報基盤センター（仮称）」を立ち上げるべく検討を進めている。かつて情報科学センターが担ってきた情報教育と教育支援機能は、2005年4月に先行して設置された「教育の情報化推進本部」に移管済みである。残されているネットワーク運用管理機構と事務システム開発の機構、それからこれからの基盤的な情報サービスを開拓するための調査・研究の機能を統合化することを目指している。

明治大学が次世代のための高等教育機関として確固とした地位を占めるためには、大学の構成員である教職員と学生たちが相互に共鳴しあいながら新しい大学を築き上げていく活動を続けていくことである。新センターはそのための情報コミュニケーション環境を提供することが使命であると考えている。

阪井　和男
明治大学情報科学センター所長
（2006年9月2日記）